

OS-14 「コトのデザイン」招待講演  
Invited talk on OS-14 "Design of 'Koto'"

コトのデザインを説得的に説明するロゴスを求めて  
Persuasive logos of explaining "Design of 'Koto'"

塩瀬 隆之<sup>\*1</sup>  
Takayuki Shiose

<sup>\*1</sup> 京都大学総合博物館  
The Kyoto University Museum

### 概要

新興国市場で先行する韓国の家電メーカーでは、マーケティングにおいてもデザインリサーチを専門とするデザイナーらが重用され、製品開発における発言権も日本におけるそれとは大きな差があると言われている。日本においてデザインはまだまだロゴスよりもむしろパトスで語られる場面が少なくなく、モノからコトのデザインへ、パラダイムの大きな転換期を伝統的なものづくりの世界に説得するデザインのロゴスが今もとめられている。

### 講演者略歴

1998年京都大学大学院工学研究科精密工学専攻修了、同年博士後期課程進学、日本学術振興会特別研究員(DC1)併任。博士(工学)。神戸大学自然科学研究科助手、京都大学情報学研究科助教を経て2008年より京都大学総合博物館准教授。現在に至る。慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員(訪問)、伊賀流忍者博物館顧問 併任。著書『科学技術 X の謎』(化学同人、2010)、連載「博物館でワクワク学ぶ」(『発達』127,128,129,130号、ミネルヴァ書房、2011-2012)。

ロボット人、師匠-弟子、目の見えない人-見える人、など、様々なコミュニケーションデザイン研究に従事。近年、自動車・家電・鉄鋼・エネルギーなど多数の企業や官公庁において人材育成、創造的なチームづくり、コラボレーションなどについてレクチャー、研究を行う。幼稚園から小中高など教育機関、博物館、市民講座において、好奇心、研究、進路選択、をテーマに講演、ワークショップなど100件以上。

連絡先: 塩瀬隆之、京都大学総合博物館、京都市左京区吉田  
本町、075-753-7739、shiose@inet.museum-kyoto-u.ac.jp